

違いと理解

北京師範大学学生代表

見学日時：2019年12月2日（月） 16:15-19:45

見学場所：早稲田大学

見学概要

今回の日本訪問では、日本の各有名企業の見学以外にも、二つの有名大学の学生との交流もあり、その一つは京都大学で、もう一つは早稲田大学であった。

早稲田大学のキャンパスは開放的であり、一般市民は自由にキャンパスに出入りすることができる。校風が自由な早稲田大学はまた多くの外国人留学生を受け入れており、キャンパス内の至る所で外国人の姿を見かけると同時に様々な国の言葉も耳にすることができた。早稲田大学のキャンパス自体もまた大きな魅力を有しており、講義棟は地形を利用して建てられ、建築スタイルはそれぞれ異なり、低い建物や高く聳える塔、さらには芝生や木々があちこちにあるなど、とても美しい環境であった。

早稲田大学は美しいキャンパスだけでなく、優秀な学生も有している。今回私たち中国大学生代表団と交流したのは早稲田大学政治経済学部各学生のグループで、日本語と英語のグループ各4組ずつに分かれ、「卒業後のキャリアプラン」と「取り組んだ課外活動」の二つのテーマについて交流と討論を行い、その後各グループの中国人学生と日本人学生の代表者1名ずつが討論の成果を発表した。各テーマについて討論した時間こそ短かったものの、双方の学生とも非常に積極的に自身の意見を述べ、交流のプロセスにおいてもまた両国の学生間の違いに気付くなど、交流や発表全体を通じてとても有意義であった。各グループからの発表が終わった後、中国伝媒大学の江篠芋さんと北京師範大学の張琬怡さんがステージ上で快板（板を打ち拍子をとりながら歌う大衆芸能）そして相声（漫才）を披露した。早稲田大学の学生らは中国語を理解することはできなかったが、彼女たちの情感豊かなパフォーマンスは大きな喝采と拍手を受けていた。



討論会はこうして終わったが、双方の学生の交流はまだ終わることなく、その後私たちは早稲田大学の食堂で夕食を共にするなど「懇親会」を開催した。そこでは更なる交流を望む学生らが思う存分語り合っていた。そして懇親会の時間も半分を過ぎた頃、早稲田大学の温かいおもてなしへの感謝を伝えるため中国大学生代表団から一曲披露するとの提案が程団長からあり、私たちは「いつでも何度でも」の合唱をした。そして代表団の元気な歌声は早稲田大学の学生らにも伝わり、彼らもまた早稲田大学の校歌を披露した。今回の早稲田大学への訪問は途切れることなく続く歌声の中で幕を閉じた。

なぜですか？

問：日本と中国の学生の卒業後のキャリアプランにおける違いは？

答：両国の学生の最も大きな違いは、大学卒業後における就職及び大学院進学への選択にある。中国では労働力が供給過剰の状態であるため就職活動の情勢も厳しく、学歴の高低は企業が人材を募集する上での重要な基準の一つとなっている。そのため、学歴が高いほど就職活動時に有利となり、中国の大学生の大多数はより良い就職先を見つけるために大学院進学を選択する。しかし日本では一般的に研究に従事したい人のみが大学卒業後に大学院で研鑽を積む。そのため、大学院に進む学生に対しては優れた従業員というよりも学術研究に打ち込む学者のイメージがあり、彼らは逆に就職活動時に学部生よりも不利になりがちである。

問：日本の大学生が学業よりも課外活動を重視するのはなぜか？

答：確かに中国の大学生と比べ、日本の大学生は課外活動をより重視している。こうした結果をもたらした直接的な原因は、日本企業が人材を募集する上で学業成績をさほど重視していないことにある。早稲田大学の学生の話では、日本企業は面接時に応募者の表現力や組織力またチームワークにおける能力をより重視しているとのことであった。そして応募者のこれらの能力を反映するのは、面接時のグループ討論等の審査項目における実際のパフォーマンスや学生時代の課外活動の履歴である。こうした事実から、日本の大学生は学業成績よりも課外活動への幅広い参加を重視している。

感想

日本と中国の学生の課外活動における最も大きな違いはアルバイトをするかどうかという点であることが討論の際に分かった。中国では学業が忙しい、アルバイトの時給が安い、学費や家賃等の支出が大きくないといったことが理由で、アルバイトをする学生は非常に限られている。またアルバイトをする学生の中でも、その大多数は家庭教師のアルバイトをしている。対して日本では、大多数の学生がアルバイトを通じて自身の生活費を賄っており、コンビニや飲食店が主なアルバイト先となっている。普段、私たち中国の学生は学業が忙しいが、休暇期間においてはアルバイトを通じて自らを鍛える必要があると思う。アルバイトは、お金を稼ぐということ以上に一種の社会的実践であり、社会のルールを学び、自立した心を培い、良き師や良き友と知り合う上での重要な手段である。

他国の文化は一枚の鏡と同じであり、交流や比較を通じて私たちは自らをより良く知ることができる。今回、早稲田大学の学生との交流により、私たちは日本文化への理解を深めると同時に中国の文化についても改めて考えさせられた。